

令和5年度

学校自己評価表(年度末評価)

学校運営計画		
学校運営方針	(1) 全教職員が一丸となって、生徒の学力向上と進路実現を図り、部活動・学校行事の振興により活力のある学校を創造する。 (2) 国際理解教育・キャリア教育・ICT教育を推進し、特色ある学校づくりを推進する。 (3) 生徒の規範意識を醸成し、他を思いやる豊かな感性、たくましく生きる気力・体力を育成する。	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
成果 ・コロナ禍で感染予防と様々な工夫を凝らしながら、教職員が一丸となって組織的に対応し、適切な教育活動を実施した。 ・推進教育を継続して実施し、学校の特色化に繋がった。また、総合的な探究の時間では、地域との連携を深め、探究活動の充実と発展に繋がった。 ・入学者選抜では昨年を引き続き、普通科・英語理数科ともに高い倍率となり、地域から期待が寄せられている。	1 質の高い授業 ・ 特色あるカリキュラム・マネジメントの推進 ・ 主体的、協働的に学ぶ学習を進展させ、学ぶ意欲及び思考力・判断力・表現力を向上させる授業の推進 ・ 探究的な学習の充実 ・ ICT教育の推進	・ 新教育課程の適切な運用 ・ 観点別評価の効果的な運用 ・ アクティブラーニング型授業の推進 ・ ポートフォリオを活用した学習指導と進路指導の充実 ・ 総合的な探究の時間等の充実 ・ iPad及びGoogleWorkspaceを活用した授業研究
	2 キャリア教育 ・ 進路目標の醸成と進路実現に繋がる、系統的なキャリア教育の展開 ・ 総合的な探究の時間による探究活動の推進 ・ 進路目標の設定と進路実現	・ キャリア教育プログラムの充実と推進 ・ 新潟地域魅力創造事業の活用 ・ 地域教育コーディネーターの活用 ・ 教科、学年、進路が連携した組織的な進路指導体制の確立 ・ 外部機関との協力体制の確立
	3 生徒指導の推進 ・ 全教職員が一丸となった生徒指導の徹底 ・ 予防的な指導等の充実 ・ 互いを尊重し、協働する活動を通して規範意識を育成	・ 挨拶の励行、正装の徹底、交通マナーの遵守など全職員による温度差のない生徒指導 ・ 豊かな心、自律の心を育てる指導 ・ いじめ等の早期発見と防止及び発生時の早期且つ組織的な対応 ・ 人権同和教育の推進
	4 特別支援教育の推進 ・ インクルーシブ教育の推進 ・ 校内支援体制の整備 ・ 関係機関との連携	・ 通級指導体制の構築 ・ 個別の指導計画の作成 ・ 教育支援コーディネーターの活用 ・ SC及びSSWの活用 ・ 保護者との連携 ・ 教育相談の充実
課題 「豊かな人間性の育成と進路実現」を目指して ・ コロナ禍での感染予防と教育活動の両立 ・ 個々の生徒に対応したきめ細かな指導 ・ 生徒指導の徹底と規範意識の向上 ・ 各部、分掌間の連携による組織力の向上 ・ 特色ある教育活動の推進と更なる充実		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	・教育効果が最大に発揮される教育課程の編成・実施と年間月間計画の作成	・教育課程委員会と連携し、教育目標を達成するための教育課程の編成を行い、継続的にその有効性を検討する。	B	B	成果と課題 校務支援システム導入2年目、運用がうまくいかない場面もあり、不安な1年だった。効果的な活用を模索すると共に、今年度の手順をマニュアル化して次年度に引き継ぎたい。 3年ぶりに体験入学を実施した。900人以上の中学生が参加した。アンケート結果には「学校の様子がよく分かった」など好意的な意見が多く、暑い中での実施だったのがうまく運営できた。 職員の皆さんの協力により、職員会議資料のペーパーレス化を実現することができた。スムーズな運用とはまだいえないが、徐々に慣れながらうまく運用できるまでもっていききたい。 教育課程が来年度から全て新課程となる。また、55分授業6コマとなり、時程も大きく代わる。その運用に関しては、先生方から様々な意見をいただいているが、来年度に向けて早めに準備をしていきたい。そして運用する中で課題が出てくると思うので、その都度改善していきたい。
		・教科書・準教科書・副教材の協議・申請手続きを滞りなく行う。	A		
		・各部署との連携を密にし、教育目標を達成するための計画を検討する。	B		
		・行事の適切な配置を継続的に検討する。	A		
	・保護者及び中学生等に対する積極的な広報活動・情報公開	・学校案内のデザインや内容を、本校の特色がより伝わるよう充実させる。	A	A	
		・学校案内を3,000部以上を配布し、学校の広報活動に努める。	B		
		・学校紹介プレゼンテーションファイルを作成し、広報活動に活かす。	A		
		・学校ウェブサイトの更新と保守管理を行い、教育活動の情報発信力を強化する。	A		
		・学校ウェブサイトのアクセス数を年間35,000以上にするため、多様な情報の発信を各部署に依頼し、こまめに更新をする。	B		
		・学校紹介動画の内容充実を図り、教科指導と教科外活動の両方の発信力を強化する。	A		
	・的確な履修指導と学籍情報および成績情報の作成と管理	・教育課程委員会・進路指導部と教務部の連携を密接にし、教育課程の検討を行う。	B	A	
		・担任向け履修指導説明会を開催し、共通理解を図る。	A		
		・生徒向け科目選択説明会を実施し、個別面談と保護者面談を通して進路希望との適合性を確認する。	A		
		・校務支援システムにおける円滑な業務遂行体制を整える。	B		
		・セキュリティの確認をこまめに行い、ダブルチェック体制を確立する。	A		
		・紙面とデジタルデータの管理を徹底する。	A		
	・校内ネットワーク等の活用および視聴覚情報機器の有効活用	・サーバーを管理運営し、定期的なバックアップを取り、不測の事態にも業務の停滞を回避できる体制を整える。	A	A	
		・年度当初にセキュリティポリシーと利用規則の徹底を図る。	A		
		・生徒向けネットワーク・情報機器の管理保守を行い、情報教育推進委員会と連携して、教育活動に有効な利用体制を構築する。	A		
		・教職員向け研修会等を通じ、視聴覚情報機器の有効活用を図る。	A		
・視聴覚情報機器台帳を作成し、保守管理の徹底と効率化を図る。		A			
・各種行事が円滑に運営されるよう、視聴覚情報機器の設置と運用を行う。		A			
・備品の管理を徹底する。		A			
・各教科や学年部と情報交換しながら、資料収集する。		A			
・図書館における資料収集と環境整備	・図書委員や生徒の声を資料選定に生かす。	A	A		
	・様々な角度から資料を探し出せるよう、図書データを整備する。	A			
	・「図書館報」(年1回)、「図書館だより」を発行する。	A			
	・廊下の掲示板やマルチメディアコーナーを使って広報活動を行う。	A			
渉外部	・PTA活動の活性化	・年度始めのPTA組織作りにおける連絡調整体制を整える。	A	A	成果と課題 コロナ禍で活動ができなかった時期があり、引継ぎがうまくいかない部分があった。コロナ後の活動を精査、構築する必要がある。
	・後援会・同窓会の円滑な運営	・PTA役員と学校との連絡調整を円滑に行えるよう、担当の明確化を図る。	A		
		・後援会・同窓会との連絡調整を円滑に行い、連携を図るため連絡リストを作成する。	A		
進路指導部	・生徒の実態に応じた活動を企画し、進路について考えさせ、次に向けた行動を設定させる。 ・進路に係る啓発活動や進路相談の機会の拡充を図り、進路目標の醸成に努める。 ・学習習慣の定着と学習機会の充実を図り、生徒の学力向上を支援する。	・大学調べ、講義体験等に係る活動とその振り返りを適切に実施する。	A	B	成果と課題 生徒にとって入室しやすい進路指導室になりつつある。来室の多くが3年生なので、1・2年生が活用できる工夫を考えていきたい。 スタサボや小論文模試の活用について改善策が明らかになったので、次年度の運営面を大幅に改善することとした。計画的かつ組織的に動けるような運営に努めたい。 また、志望理由書の指導も学年任せでなく、指導の流れを構築していきたい。
		・志望理由書作成などの指導を通して、自らの進路について考えを深めさせる。	B		
		・進路だよりや講演会等を通じて、タイミングにあった進路情報の提供に努める。	A		
		・「開かれた進路指導室」「的確な情報分析」に努め、進路相談等の充実を図る。	A		
		・各種調査(スタサボ、PROG-H、学習時間調査等)を分析し、指導に生かす。	B		
		・模擬試験やGTEC、小論文模試を学年部・教科部と連携して効果的な実施をめざす。	B		
生徒指導部	・基本的生活習慣の確立 ・規範意識の向上および自律的態度の育成	・服装、挨拶の指導を徹底する。(基準の明確化:進路面接に臨む際に耐え得る服装と態度)	A	A	成果と課題 落ち着いた生徒、問題行動の少ない教育活動の環境整備、従来築いてきた成果が十分に現れてきた。今後も継続していきたい。 発達支持的生徒指導の実践。 生徒を信じて、失敗を元に学びのある成長へつなげる信頼関係の構築を目指したい。
		・頭髪服装検査を不定期に実施する。	A		
		・朝読書指導と連携した各学年フロアでの規律指導を実施する。	A		
		・授業時間内外の規律指導を実施する。(時間のけじめ)	B		
		・校内巡視による規律指導を実施する。	A		
		・本校の品位を貶める行動への意識改革指導を実施する。(集会等による啓発)	A		
		・規律委員会の活動を活性化させ、生徒主体の規範意識向上を図る。	B		
		・薬物乱用防止講演会等を実施する。	A		
生徒会部	・生徒会活動を通じ、生徒の自主的かつ自立的な精神を涵養し、充実した学校生活の形成を図る	・生徒会執行部の自主的な運営をサポートする。	B	A	成果と課題 コロナ5類移行後の生徒会行事であったが、生徒会事務局(執行部)は安心・安全を最優先にしながら行事運営を行った。とくに初開催であった市立3校合同教育フェスティバルでは生徒会事務局(執行部)で他校生徒会とともに協力し、アイデアを出し合いながら開催することができた。来年度の諸行事を今年度以上に充実したものにするのはもちろんであるが、内容の精選や見直しも図ることができるよう、生徒会部としてどのようにサポートしていくかが今後の課題である。
		・各委員会、部活動の活性化を図る。	A		
		・対面式、部活動紹介、生徒総会、壮行会等の主体的な運営を推進する。	A		
		・体育祭、文化祭、市立3校合同教育フェスティバル、芸術鑑賞会、球技大会を充実	A		
		・生徒会新聞「水都」、機関誌「きざはし」の内容の充実を図る。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			成果と課題
保健部	<ul style="list-style-type: none"> 正しい知識と自己肯定感をもち、適切な意志決定や行動選択ができる生徒を育成する 学校環境の整美、保全に努め、生徒の美化意識を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態から課題を明確化しそれに応じた保健教育を行う。(年2回の思春期講座を継続する) 	A	A	A	成果と課題 【成果】 ・コロナ5類移行に伴い、必要な感染症対策を行いながら、コロナ禍以前並の活動になるよう精査できた。 ・健康診断やモップ交換、ワックスがけなど予定していた業務を滞りなく実施することができた。 ・生徒委員会活動では、トイレの美化を目的とした標語やポスターの作成を生徒主体の活動として実施できた。 【課題】 ・トイレの使用状況や衛生状況に課題があり、用具の整頓、清掃のチェック項目を設けるなどトイレの環境美化対策したい。 ・保健委員会(生徒)の活動が水都祭のみであったため、来年度は生徒の意見も反映させながら、幅広い活動計画を立てたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康の保持増進のために活用される保健室経営をする。 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の活動を活性化し、健康に過ごすための企画・運営をしていく。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する情報提供とその対応について生徒及び職員及び保護者に周知する。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> 相談支援委員会・学校カウンセラー等と連携を図りながら健康相談に関する効果的な指導を目指す。養護教諭とカウンセラーは随時、情報を共有し必要に応じて部会を開催して全体での理解を深める。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康実態を把握し、感染症予防に努める。 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃活動の重要性を確認すると共にゴミの分別と丁寧な清掃活動を行う。 環境美化委員会の活動を通して生徒の美化意識の高揚を図る。 	A			
教育課程委員会	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の適正な運用に努め、履修指導の方向を定める 	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年次選択群の決定を5月中旬に終了し、5月下旬からの履修指導に備える。 適切な履修指導を行うため、担任団へ説明会を開き、指導内容の周知徹底を図る。 新教育課程が多様な進学に対応しているか、検討を図る。 	A	A	A	成果と課題 教育課程が年次進行でスタートした。完全実施に向け、確実に内容を生徒に周知する。教育課程が進学に対応しているか毎年検討していく。
安全衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> 職場安全・衛生の維持・改善、職員の健康維持 	<ul style="list-style-type: none"> 職場巡視、会議を通じて職場安全・衛生の維持・改善を行う。 職員健診、ストレスチェックを円滑に実施し職場の状況把握と情報伝達を行う。 	A	A	A	成果と課題 職場安全・衛生に関する検討を行っていくつかについて実施した。健診、ストレスチェックの分析、情報伝達を行った。
人権同和教育推進委員会 (兼男女平等教育推進委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権意識を高めるため、具体的な指導方法の検討と指導機会の設定を行う 性役割の意識が形成されないよう、学校教育全体を通じて人権尊重・男女平等の意識を生徒に醸成させ、男女相互の理解と協力について教育機会の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会への参加と教職員への研修内容を報告する。 教職員対象研修会を年1回実施する。 生徒対象研修会を年1回実施する。 生徒指導用教材の選定と活用法を検討する。 総合的な探究の時間、LHR等を活用した継続的な指導を行う。 教職員研修の充実を図る。 生徒に対する指導法・指導機会・教材等を検討し、授業や総合的な探究の時間、LHRなどを活用して指導する。 	A	B	B	成果と課題 ●成果 ・教職員対象の研修会報告書の作成、周知の方法について、整理することができた。 ●課題 ・年間計画に位置づけた教職員対象研修会、生徒対象研修会を実施することができなかった。 ・男女平等教育については、各教科がそれぞれの単元で取り上げているが、今後それらを整理して、各教科で連携できるようにする必要がある。 ・総合的な探究の時間では、1年を通じた探究活動が行われており、この時間を活用することはむずかしい現状にある。LHRに適宜一途蹴られるよう整理する必要がある。
防災委員会	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の実施 迅速な避難 適切な暖房器具の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に避難訓練の原案を作成し、生徒・職員への防災情報の提供を行う。 避難訓練を実施し、安全避難のためにハンカチ等の使用の励行指導を行う。 冬季暖房等使用マニュアルにより、冬季の防火に努める。 	A	B	B	成果と課題 ●成果 ・多くの職員で防火管理を行うことができるように管理責任者の整理を行うことができた。 ・全校生徒が一斉にグラウンドにおいて避難訓練を行うことができた。 ●課題 ・今後、火災だけでなく、津波や地震を想定した訓練や生徒自身が主体的に避難する訓練を行う必要がある ・防災専門家からの指導(職員も含め)を取り入れていく必要がある ・防災委員会の業務の整理及び確認
総合的な探究の時間推進検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」の活用法を確立し、各分掌との調整を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度総合的な探究の時間の年間計画等を作成して周知し、全職員の協力的体制のもとで指導、評価にあたるようにする。 探究活動の過程において他者と協働して課題を解決しようとしたり、生徒が進路に結びつけて考えたりできるよう指導、支援を行う。 総合的な探究の時間の実施内容を振り返り、来年度の内容について検討する。 	A	A	A	成果と課題 各学年とも、すべての教員が生徒に関わるよう活動を仕組むことができた。生徒に確かな力をつけさせ、生徒の進路に繋げていけるよう、今後も引き続き評価や指導内容について検討していく必要がある。
相談支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱えた生徒に対する支援体制を整備する 生徒の心身の健康をサポートする 教員の資質向上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 問題や不安を抱えている生徒に対し、担任や関係各所と連携し、面談、カウンセラーの仲介、外部機関の紹介など早期対応を目指す。 相談支援通信の発行等を通し、悩みがあった時には相談する場があることを知らせる。 支援を必要とする生徒に関する情報交換会を定期的で開催し、生徒に関する情報を共有し、支援体制を整備する。 メンタルヘルズ講座(思春期講座)を実施し、援助希求の大切さを理解させる。 生徒理解に関する教職員対象の講習会を開き、教育相談のスキルアップを図る。 	A	A	A	成果と課題 不安や悩みを抱える生徒に対し、担任や学年等と連携が取れた。必要に応じてカウンセラーともつながられた。アンケートや生徒情報交換会を通して生徒の問題や情報を共有できた。教員対象の講演会を開催し、教育相談に役立つ知識が深まった。生徒の情報を提供、共有するだけでなく、手立て等を話し合う場があるとよい。
情報教育推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 授業においてICT機器がより活用されるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の利活用について校内に情報発信を行い、ICTに関する相談先としての機能を果たす。 ICT機器等の利用規程を定めて教職員に周知し、より円滑な利用を助ける。 	A	A	A	成果と課題 GIGAカフェマガジンを予定通り発行して、ICT機器の利活用を促進した。校内のiPad管理が想定以上に時間を要した。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			成果と課題
1 学年	〈学校生活〉 ・学校生活の充実を図る	・公共性を理解し、それを守ることによってお互いが快適な学校生活を送ることができるよう促すとともに、落ち着いて学習できる環境づくりに努める。	B	A	A	成果と課題 【成果】 ・挨拶の励行や時間を守った行動など、集団として、基本的な生活習慣を身に付けることができた。 ・21期生の良さの1つである素直さを大切に、より一層伸ばすことができた。 ・学習における自身の課題を克服するために、放課後学習会等の機会を自らとらえ、積極的に学力向上に努力する姿が見られた。 ・初めての宿泊行事であるスキー授業をととして集団生活に対する考え方を改め、集団としての意識や行動において確かな成長が見られた。 【課題】 ・学習への取組が主体的なものになっておらず、「与えられる」、「やらされる」という意識が全体としては感じられた。→授業改善と授業力の向上に取り組むことで、授業で子どもたちを引っ張ることができるように努める。 ・卒業後の進路に対する意識の醸成が不十分であった。→大学講義体験や大学生との交流、オープンキャンパスへの参加や講義動画の視聴などの取組を計画的につなげて指導の効果を上げる。
		・授業への集中と、部活動等の活動への積極的な参加を促すとともに、体育祭、文化祭等の学校行事への参加や学級活動を通じて、社会性や友情を育み、仲間と協働しながら創造する喜びを体感させる。	A			
		・清掃を確実に実施し、校舎の美化の意識を持たせるとともに、協力して活動すること	A			
	〈生活指導〉 ・基本的な生活習慣を確立させる	・挨拶の励行を促し、礼節を重んじる態度を培うとともに、欠席・遅刻・早退の数を極力少なくする。	A	A		
		・授業開始2分前の着席や集会時の5分前行動を徹底させるとともに、校則に則った適切な頭髪や制服の着用を繰り返し指導し、規範意識を育てる。	B			
	〈学習指導〉 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る	・授業を大切に、集中して取り組む姿勢を身に付けさせるとともに、学級指導や講演会等を通して、学習に主体的に取り組むことの必要性を自覚させ、学習に対して自己責任をもち、主体的に取り組むこと	A	A		
・日頃の予習・復習や土曜講習、長期休業中の講習などを通じて、主体的な学習習慣を育み、希望する進路を実現できる学力を身に付けさせる。		B				
〈進路指導〉 ・自己に対する理解を深め、将来への展望を持たせる	・総合的な探究の時間における探究活動を通じて学びの記録を蓄積し、自己のキャリアや進路についての意識を高め、自らの将来を自ら切り拓くことのできるたくましい生徒を育成する。	A	A			
	・生徒との面談を通じて生徒理解に努め、生徒の職業や学問についての理解を深めながら、2年次に向けて適切な科目選択ができるよう指導する。	A				
〈広報活動〉 ・保護者への情報提供を充実させる	・PTA総会、保護者懇談会、進路講演会、学年便り、万代高校ホームページ等により、学校状況や進路等に関する情報の提供を行う。	A	A			
2 学年	〈学校生活〉 ・学校生活の充実	・社会の規範の意味を知り、それを守ることによってお互いが快適な学校生活を送ることができるよう促す。	A	A	A	成果と課題 新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ以前の日常が戻ってきたこともあり、体育祭・文化祭・修学旅行などの学校行事を通じてより充実した学校生活を提供できたのはよかった。学習面では、基礎学力や大学入試に対応できる学力が十分定着しているとは言えないので、個々の生徒の進路実現に向けてさらなる工夫・支援が必要である。年度末が近づくにつれ放課後教室や図書館で勉強する生徒が増えてきたり、総合学力テストや模試への意識が高まっているのは良い兆しである。授業開始時の着席も含めて遅刻する生徒が散見された。服装や身だしなみの点でも合格点に達しているとは言いがたい。これらは来年度に向けて改善を要する課題である。学年全体として見ると、素直で好感が持てる生徒たちであり、今後も状況に応じて臨機応変に対応しながら生徒たちに寄り添っていきたい。
		・授業への集中と、課外活動への積極的な参加を促し、継続して努力する態度を身につけさせる。	A			
		・体育祭、文化祭、球技大会等の学校行事への参加や学級活動を通じて、コミュニケーション力を育み、他人と協力しながら創造する喜びを体感させる。	A			
		・修学旅行を通じ、自国の文化・歴史・産業・生活について深く理解するとともに、平和の尊さを学ぶ。また、団体行動を通じて社会性・公共心・責任感を養う。	A			
	〈生徒指導〉 ・基本的な生活習慣の確立	・清掃を確実に実施し、校舎の美化の意識を持たせるとともに、公共性を理解させる。	A			
		・挨拶の励行を促し、礼節を重んじる態度を培う。	A	B		
		・欠席、遅刻、早退を減らすとともに、授業開始時の着席や、集会時の時間前行動を徹底する。	B			
	〈学習指導〉 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着	・校則に則った適切な頭髪や制服の着用を繰り返し指導し、規範意識を定着させる。	B			
		・面談等を通して生徒理解に努め、不適応になる生徒を出さないよう支援するとともに、不適応傾向の見られる生徒に寄り添いながら指導する。	A			
		・授業を大切に、集中して取り組む姿勢を身につけさせる。	A	B		
	〈進路指導〉 ・総合的な探究の時間や個人面談等を通じた進路意識の高揚	・学習指導を通して、家庭学習の必要性を認識させ、家庭学習2時間の習慣化を目指す。朝読書・朝学習を通して、教養と人間性を豊かにする。	B			
・基礎学力の向上を図り、希望の大学進学に対応できる学力を身につけさせる。		B				
・生徒との面談を通じて生徒理解に努めるとともに、一人一人の希望を引き出し、将来への展望を持たせる。		A	A			
〈広報活動〉 ・適切な広報広聴活動	・総合的な探究の時間での諸活動やオープンキャンパス参加等を通じて、学びの記録を蓄積し、進路についての意識を高めさせる。	A				
	・授業の大切さや日頃のテスト、総合学力テスト、模擬試験等の重要性を認識させ、着実な学習の積み重ねを促す。	A				
	・自己の適性と将来の展望を明確にさせ、進路実現に向けて生徒を全力で支援する。	A				
〈広報活動〉 ・適切な広報広聴活動	・PTA総会、保護者懇談会、進路講演会、学年便り、万代高校ホームページ等により、学校状況や進路等に関する情報の提供を行う。	A	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			成果と課題
3 学年	(学校生活)	・責任を持てる独立した個人としての意識を涵養する。	B	A	A	<p>成果と課題</p> <p>学習面では、体育祭明けから少しずつ、自分の進路に向けてひたむきに努力する生徒が増えた。その反面、学習にきちんと向き合うことができなかつたり、学校生活に対して不適応を起こしたりすることで、転学をする生徒が少なからずいた。12月になってから欠席する生徒が増えていった。授業が特編になったことも要因として考えられるが、それまでの学習や進路に対する指導もその一因であると考えられる。これについては三年間を見通した指導が必要であると感じた。</p> <p>生活面では一部の生徒を除いてはおおむね良好であった。1、2年生のときに担任団の粘り強く接した成果だと感じた。</p> <p>何事についても、学年部の先生方の協力のもと、担任団が丁寧かつ根気強く指導を行ってくれたため、生徒は大きく成長できたと感じた一年間だった。</p>
		・学校生活を充実させ、全員の卒業を目指す	A			
	(生徒指導)	・日々の働きかけや登校指導等により、自覚を持って遅刻・欠席を減らし、日々の学習に集中できる基本的な生活習慣を身につけさせる。	B	B		
		・制服の適切な着用等を朝学習時や授業時、LHR時などを通じて繰り返し指導し、規範意識を身につけさせる。	B			
	(進路指導)	・受験に対応した課外指導・特編授業を行う。	A	A		
		・大学への進学希望者に対し、模試等の結果を踏まえ適切かつ広い視野を持った進路選択のための情報提供をし、希望する進路実現を図る。大学進学希望者の現役大学合格率90%以上を目指す。	A			
		・年間を通じて個別面談を行い、一人一人の進路希望を把握し、より良い進路選択ができるよう学年団で協力して生徒の進路実現を目指す。	A			
		・時期に応じた適切な情報提供と、最後まで諦めさせない指導で、達成感を持たせる進路指導を行う。	A			
		・職業意識や社会人としての意識をふまえて自分の将来を自分の口で語れるようにキャリア教育をすすめる。	B			
	(広報活動)	・保護者懇談会、進路講演会等により、学校運営や進路に関する情報の提供を行う。	A	A		
・保護者に、行事日程、進路情報、生徒の状況などの情報を適切に発信する。		A				
・保護者からの質問、照会に的確に対応する。		A				
国語	・国語に対する関心と理解を深めるとともに、基礎学力を定着させ応用力を錬成する	・授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A	A	A	<p>成果と課題</p> <p>各学年に応じた目標を設定し、授業や課題、小テストに向けての学習に継続的に取り組ませ、実力の定着、向上を図った。また、電子黒板やICT機器を活用し、生徒の深い学びを促す工夫をした。今後は、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、さらなる授業改善に努めたい。</p>
		・予習、復習を習慣づける。	B			
		・長期休業中や週末の課題に対してしっかりと取り組ませる。	B			
		・各種講習や特編授業を通して、問題を解く力を身につけさせる。	A			
		・模擬試験の過去問演習とその解説を行う。	A			
地歴・公民	・学習習慣の定着を図り、基礎学力を充実させる ・進路実現のための学力伸長に努力する	・質の高い授業研究と改善に努め、日々の授業をわかりやすいものにする。	A	A	A	<p>成果と課題</p> <p>共通テストスタイルに適応させるための思考力・判断力・表現力を向上させる指導方法を教科としてより努力する必要がある。今後の課題である。カリキュラムや評価方法については生徒の実態に合わせ、検討の必要がある。</p>
		・生徒の思考力が深まるような教材を精選し、学力と思考力の向上に役立てる。	A			
		・補習や特編授業などを通じて、大学進学への学力を伸長させる。	A			
		・模擬試験の対策・演習を行い、その解法を充実させる。	A			
		・新課程の観点別評価方法を確立する。	B			
数学	・学習習慣と基礎学力の定着を図る ・進路実現のための実践力を養う	・数学的思考力・判断力・表現力を養う授業を展開するため、授業の研究、改善に努める。	A	A	A	<p>成果と課題</p> <p>授業・課題学習・講習を通して基礎学力の向上と定着を図った。 3年生に共通テストに対応できる力をどうつけていくかが課題。□ □</p>
		・予習、復習を習慣づける。	B			
		・週課題等適切な課題を課し、点検する。	A			
		・3年生の特編授業を充実させる。	A			
理科	・進路実現のための基礎学力向上と使命感ある理系人材の育成	・実験観察やICT活用で充実した授業を展開する。	A			<p>成果と課題</p> <p>実験や観察を通して学習意欲を向上させることができたが、論理的な思考力があまり深まっていないことが課題である。また、サイエンスキャンプで先進研究に触れたことで、学習意欲をさらに高めるとともに、進路探究の良い機会とすることができた。</p>
		・外部講座等の案内や参加斡旋、サイエンスキャンプを通して、理系分野の現状と課題への興味関心や理解を深め、学習意欲の向上を図る。	A	A	A	
保体	・健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A			<p>成果と課題</p> <p>(成果) 新カリキュラムの2年目ではあったが、学習カードを導入させたことで、各単元において生徒自身がそれぞれ目標を明確にしながら積極的に活動に取り組めた。特に、生徒自身が練習計画を立て、グループで相談しながら授業を進め、視覚化し教師が評価につなげる実践ができた。 3年次については、運動の楽しさや喜びを深く味わせながら、豊かなスポーツライフにつなげることができた。 (課題) 学習カードの充実・工夫を図りながら、活動時間の一層の確保を図る。学習評価の一貫性への取り組み。</p>
		・運動の実践を通じ知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことを理解させる。	A			
		・自ら運動の計画・実践が行え、運動の楽しさを導き出す能力を育てると共に、公正、協力、責任などに対する意識を高め、健康、安全を確保し、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	A	A	A	
		・個人及び社会生活における健康、安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	A			
芸術	・芸術の幅広い活動を通して、音楽・美術・書道における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。	・授業研究と改善に努め、質の高い授業を充実させる。	A			<p>成果と課題</p> <p>(成果) 授業を充実させるため、タブレット端末を利用して、題材のねらいに応じた適切な資料や課題を提示したり、生徒が活動の様子を振り返ることができるようにしたりした。3科で意見を出しながら芸術 I の評価の方針を合わせた。 (課題) 評価内容が3観点の何にあたるのか、適切に設定できているのかを3科で話し合う。指導と評価の一体化ができるよう、今後も評価内容を明らかにしながらより良い授業へつなげる。</p>
		・見方・考え方を働かせるための教材・題材の工夫をする。	A			
		・教科の特質を理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けさせる。	A	A	A	
		・創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わう活動を入れる。	A			
		・鑑賞の能力を高め、芸術文化への理解を深めさせる。	A			
英語	・基礎学力をつけ進路希望実現を目指す	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A	A	A	<p>成果と課題</p> <p>・模試や学力テストの成績を分析するだけでなく、GTEC結果分析会を開催し生徒の英語力の実態を把握し、英語コース生徒が地域と連携する活動を行い、英語学習への動機づけを図ることができた。</p> <p>・新潟県のスピーチコンテストやディベート大会への参加を促すことができた。また郊外での英語研修に普通科の生徒も多く参加し、英語力向上に努めた。</p>
		・中学既習事項を徹底する。	A			
		(小学校既習単語600～700語、中学既習単語1,600～1,800語、文法事項を用いた表				
		・各種課題により基礎学力をつける。 (週課題、長期休業課題、授業時の小テスト、朝学習等)	A			
	・模試結果を分析し、授業に活かすとともに各種講習を通じて実践力をつける。 (土曜講習、春期・夏期講習、平日講習、模擬試験の活用等)	A				
	・英語学習に対する動機づけを高め英語力の向上につなげる	・各種スピーチコンテスト等への参加、各種国際交流行事への参加、ALTの活用を行う。	A	A		
		・外部試験の活用による英語力向上を図る。 (実用英語技能検定、GTEC、TOEIC Bridge等)	A			
・卒業時まで実用英語技能検定2級以上の実力を養成することを目標とする。		A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			成果と課題
家庭科	・生活に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させる	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	B	B	B	成果と課題
		・日常生活に必要な、衣食住や法律、消費者問題、環境問題などの知識を学び、自分の生活を考えさせる。	A			「主体的・対話的で深い学び」になるよう授業改善に努め、ICTを活用しながら学習活動を進めた。ルーブリックを示し実習を行うことで、基礎的な技術を確実に身につけようとする姿が見られた。学んだ知識・技術を自分の生活や地域社会のために生かす力をさらに向上させることができるよう工夫していきたい。
	・実験実習を通して基本的な技術を習得し、日々の生活に生かす力をつけさせる。	A	成果と課題			
	・家庭生活や地域の向上を図る能力と実践的な態度を育てる	・自分の生活を見直し改善する実践を通して、自立して生活するための意識を養う。 ・地域社会や環境を見つめ、社会の向上に貢献する意識・態度を育てる。	A B	・大学入試共通テストを意識した授業の展開、演習問題を実施することができた。 ・プログラミングの実習を通して、アルゴリズム思考を養い、問題解決に最適なプログラムを見つけ出す力を身につけさせることができた。 ・大学入試共通テストを意識した授業を中心に行ってきたため、ワードやエクセルなどのソフトウェアを活用する実習に十分な時間を確保することができなかったことが課題である。		
情報	・情報を適切に扱うための基礎的な知識と技能を習得し、自分と他者とを効果的につなぐ社会的知性を高め、データやロジックに基づく科学的かつ実践的思考能力を養う	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A	A	A	成果と課題
		・情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、現代社会で必要とされる調和的・自律的デジタルシティズンシップの醸成につながるように、議論テーマや課題を設定する	B	成果と課題		
		・実習を通してプログラミングや暗号通信・データ分析手法を習得させ、目標達成/問題解決を図る	A	・大学入試共通テストを意識した授業の展開、演習問題を実施することができた。 ・プログラミングの実習を通して、アルゴリズム思考を養い、問題解決に最適なプログラムを見つけ出す力を身につけさせることができた。 ・大学入試共通テストを意識した授業を中心に行ってきたため、ワードやエクセルなどのソフトウェアを活用する実習に十分な時間を確保することができなかったことが課題である。		
		・ワード・エクセル・パワーポイント等の基本的なソフトウェアを適切に活用し情報を収集・処理・表現できるようにし、科学的探究に役立つ力が育つように工夫する。	B			
成果	新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、学校生活が「通常」に回復した年度であった。変化に戸惑う生徒に対して、学年団・各分掌が連携して支え、丁寧かつ根気強い指導が行われた。各教科では「対話的で深い学び」になるよう、学年・クラスの実態に応じて指導改善に努めた。その結果、例えば英語科においては、県スピーチコンテスト等の対外活動に進んで参加する、主体性を持った生徒が増えてきたと感じる。次年度からは、教育課程がすべて新課程となる。また、55分授業6コマとなり、学校生活の枠組みが大きく変わる。学年部・各分掌で連携しつつ、生徒一人一人の自己実現に努めたい。	総合評価			A	